

SOFT路線に回帰する英国

論点

1. “Brexit” は英国にとって正しい判断だったか
2. 当時、Brexitを避けることはできたのか
3. （日本への教訓は？）

記事概略

- Mayはhard Brexit路線を推進してきたがアイルランド国境問題を前に柔軟化の兆し。
（「ヨーロッパとイギリスのための良いニュース」 By Economist）
 - EUは北アイルランドでは新国境に新たな検閲のないことを要求し、Mayは12月にこれに同意。
 - しかしその実現は容易ではなく「バックストップ」（EUの関税組合に北アイルランドを残す）に頼る以外にない。
 - 北アイルランドとイギリス本土間の通関検査を避けるために、結局関税組合は英国全体をカバーすることになる
- 交渉はソフトな出口を模索しているが、Mayの所属する保守党の投票意志が大部分の英国人がSoft Brexitを支持する情勢を反映しないという問題アリ。保守党の一部EUフォビアは北アイルランドという尾が英国という犬を振っていると不平をもらし、アイルランド海で関税境界を見ることを選択する可能性もある。
- Soft Brexitを離脱派は完全離脱への移行として、残存派はEUに再加入する基盤と見る。中立派はその分断構造こそが最悪だと考える。英国はこの移行期に長期滞在する可能性が高い。Soft Brexitに引用されるノルウェーは94年にEUと**一時的**な経済協定を締結し、それは**現在も**実施されている。

